

百人一首集の抄
中



百人一首基筭抄中

○三條右大臣

サニテタノウタイ 定方内大臣 高藤公二男
母官内大輔 弥益女

良門

利基

兼輔

惟正

爲時

紫式部

高藤

定方

右大臣左大将
三條右大臣

○名

く

後撰集第十一巻二何事は女に
五文字の字はあはれとて人
一文字の字はあはれとて人
さるらんちとて人
いふ運路の者とて人
人ふ知るもて人



拾遺

凡河内躬恒

古傳云先祖不見甲斐小目御厨子

檣

祇注

行氏ユキカミ孫マコ謹ツツミ利トシ子コヲフ

六姓之。又甲斐小目

五十六卷

ぬき

六百番のあかき一曉の恋と

有家細長

たけなすのふひもやあつたけりしとぞいふるを
 老よりかきけしつゝ曉の露のほろろのつれづれに
 ね申てふあはれはれをくみしとていふて成りあつてよ
 みてふ神のさけりてあつていふていふていふていふて
 人とはさうしていふていふていふていふていふて
 てきく最明のけりけりていふていふていふていふて
 ともづつたれに申ていふていふていふていふていふて
 ふまゝたふのけりけりていふていふていふていふて
 はれりていふていふていふていふていふていふて
 わりていふていふていふていふていふていふて
 人のけりていふていふていふていふていふていふて
 ○坂上是則 大内記從五位下。加賀介。御書取預
 坂上田村丸 廣野 當常 好蔭 是則 望城 後撰撰者
 五人之内
 ○期りていふていふていふていふていふていふて

一の里にわたりて

たけなすのふひもやあつたけりしとぞいふるを
 老よりかきけしつゝ曉の露のほろろのつれづれに
 ね申てふあはれはれをくみしとていふて成りあつてよ
 みてふ神のさけりてあつていふていふていふていふて
 人とはさうしていふていふていふていふていふて
 てきく最明のけりけりていふていふていふていふて
 ともづつたれに申ていふていふていふていふていふて
 ふまゝたふのけりけりていふていふていふていふて
 はれりていふていふていふていふていふていふて
 わりていふていふていふていふていふていふて
 人のけりていふていふていふていふていふていふて
 ○明芳は月、
 新すす
 さすかに明の
 あまの光が
 ともりて
 足るす

わたりていふて

たけなすのふひもやあつたけりしとぞいふるを

拾遺 阿弥云々

阿弥云々

とわけることの御しとめられたる成りて、是の月と
も、さるる野のふかき雪を、成りて、さるる
か、さるる、成りて、さるる、成りて、さるる、
さるる、成りて、さるる、成りて、さるる、
さるる、成りて、さるる、成りて、さるる、

○春道列樹 從五位下。雅樂頭。新名宿禰。一男ト云
文章博士 正六位上。壹岐守 出雲守

○山川のりて、さるる、成りて、さるる、
成りて、さるる、成りて、さるる、

古今集、孝元天皇。御書に、志願のふりて、さるる、
袖中、妙十七云、顯昭云、信願のふりて、さるる、
一りのりて、如意のふりて、さるる、成りて、さるる、
成りて、さるる、成りて、さるる、成りて、さるる、
成りて、さるる、成りて、さるる、成りて、さるる、
成りて、さるる、成りて、さるる、成りて、さるる、

の海に、さるる、成りて、さるる、成りて、さるる、
成りて、さるる、成りて、さるる、成りて、さるる、
成りて、さるる、成りて、さるる、成りて、さるる、
成りて、さるる、成りて、さるる、成りて、さるる、
成りて、さるる、成りて、さるる、成りて、さるる、
成りて、さるる、成りて、さるる、成りて、さるる、
成りて、さるる、成りて、さるる、成りて、さるる、
成りて、さるる、成りて、さるる、成りて、さるる、

○紀友則 孝元皇子。此命十九代孫。本道。望行。貫之。古々會。
彦太忍信命。此命十九代孫。本道。望行。貫之。古々會。
有友友則。古々會。撰者内。

我などうんものとして思ふ。我へすこも老衰てある
ふ。松を若く不憂ふ。わづるれど。是も我のひき。こゝろをい
ふ。松を若く不憂ふ。わづるれど。是も我のひき。こゝろをい
一多摩。昔の不改而時客。他れはひき。こゝろをい
う。文をさる。我のひき。こゝろをい
をれ。さる。我のひき。こゝろをい
をれ。さる。我のひき。こゝろをい
をれ。さる。我のひき。こゝろをい
す。多。我のひき。こゝろをい
乃。我のひき。こゝろをい

○紀貫之 古今集曰御書所預新撰曰玄番頭後五位上。

孝元天皇ノ御末紀望行子也。或文韓男云云

童名阿古久曾

○人といふもあつてはう里へ
花をひく。のきふひき

我などうんものとして思ふ。我へすこも老衰てある
ふ。松を若く不憂ふ。わづるれど。是も我のひき。こゝろをい
う。文をさる。我のひき。こゝろをい
をれ。さる。我のひき。こゝろをい
をれ。さる。我のひき。こゝろをい
をれ。さる。我のひき。こゝろをい
す。多。我のひき。こゝろをい
乃。我のひき。こゝろをい

於うり多胡かふけ哉

○右大将道綱母

藤原倫寧女東三条入道關白兼家公室本朝
古今義人三人ノ内ナリ道綱八九条右丞相師
輔公孫兼家公ノ三男ナリ

○やけさつ獨りぐりのやうな
いふく^{ひさ}くもあつて

拾遺集第十回巻。朝嘉は入道掾。故よりりしを
 承よ門下をそくわけられし。うちうへひのとこ入るゆ
 うとわれもしくせふ。さうしてありてや。相事とてよくぞ
 しり。うゑきとしかよみせるまじ。奇特のうなるべし。
 カ文をわさかなんぞ。けい門にあるが。だま侍りのころと云
 ふをうけてござ程なり。さあしりつゝひきすすむ。成親
 オゲとて。猶ある。一のゆらつる。いさなり。今おもしろ。

○赤染右衛門

上東門院女房。或鷹司殿女房

一説光孝天皇一是忠親王平篤行一平兼盛

赤染右衛門

栄花物語四十一卷ヲ作セリ 赤染ハ姓也

妹 中關白密通ノ人也此ヲタノ詞書ニアリ

或大隅守時用女ト云云

江記云。赤染ハ赤染時用女也。依歴右衛門志府等

号赤染右門實兼盛女也云

○やすきでねるまゝ 惣ざりまゝ

かゝるまゝの月夜なり

後拾遺集卷十二恋二。詞書に中の園にうづめおのちと
ふけしうづめおのち人よものいひにけりけりてのめ
てこごりたるけりてめて女ふりてゝあるとありてめて
とて。明き羽かり。わづる月とまゝ。伊勢物語の貞女が
一。晨のまゝけり。いかにとあるのやふわづる。いかに
なと。うづめおのちけり。物成ふとある。いかに

うづめおのちけり。待たるけり。けり。せと。いかに。まゝ。
まゝ。けり。のまゝ。やと。いかに。まゝ。けり。のまゝ。
まゝ。けり。のまゝ。やと。いかに。まゝ。けり。のまゝ。
まゝ。けり。のまゝ。やと。いかに。まゝ。けり。のまゝ。
まゝ。けり。のまゝ。やと。いかに。まゝ。けり。のまゝ。
まゝ。けり。のまゝ。やと。いかに。まゝ。けり。のまゝ。
まゝ。けり。のまゝ。やと。いかに。まゝ。けり。のまゝ。
まゝ。けり。のまゝ。やと。いかに。まゝ。けり。のまゝ。
まゝ。けり。のまゝ。やと。いかに。まゝ。けり。のまゝ。
まゝ。けり。のまゝ。やと。いかに。まゝ。けり。のまゝ。

まゝ。けり。のまゝ。やと。いかに。まゝ。けり。のまゝ。
まゝ。けり。のまゝ。やと。いかに。まゝ。けり。のまゝ。
まゝ。けり。のまゝ。やと。いかに。まゝ。けり。のまゝ。
まゝ。けり。のまゝ。やと。いかに。まゝ。けり。のまゝ。
まゝ。けり。のまゝ。やと。いかに。まゝ。けり。のまゝ。
まゝ。けり。のまゝ。やと。いかに。まゝ。けり。のまゝ。
まゝ。けり。のまゝ。やと。いかに。まゝ。けり。のまゝ。
まゝ。けり。のまゝ。やと。いかに。まゝ。けり。のまゝ。
まゝ。けり。のまゝ。やと。いかに。まゝ。けり。のまゝ。
まゝ。けり。のまゝ。やと。いかに。まゝ。けり。のまゝ。

○小式部内侍

橘諸兄公十一世孫仲遠道負小式部内侍

○大にいひてみかんのまをたれ

まゝ。けり。のまゝ。やと。いかに。まゝ。けり。のまゝ。

病成りて多のうゝ表なりとて
ふふふふの買ふとゆふと

後拾遺集第六卷二詠書に、人謂言行成物語を以て
作多るに。肉の所りのいみふこりれとぞ。そんよりてつ
りくちものゝあふもよすされしといひおそむ侍りぬ
後少つづき々んぞり乃ちある函谷の園のとよりやといふ
うりまゐる代立ちたり是は函谷の園にとりたれはう
ろくとわり。言語はやり言らるるといはれようかむずし
く建康の園をゆるさうとてなきてはけゆるさうとて函
谷のめくぬ函谷の園とて建康とて一月の中ふやと
うふうみびらるるうよなりふいとて函谷の園の中へ
直聲君とてひひ人秦王になれわが後ふらんたて
のくれし何處かの園鶏のかうねむりの人だ通とて
直聲君とてその客の中に。鶯也として鶯のかういふと
しくする者あり。きく鶯のかういふとてうたれたまはこ

[illegible]

○左京大夫道雅

伊周道雅女子

上東門院女房哥人
宣旨後拾遺作者

今此田の段々

人にてかして云ふ

後拾遺集卷第十三 忠二
訓書人伊勢斎々々々々



